

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	4264 地域流域政策論			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	土曜2限				
教室	H202教室				
代表教員	堂前 雅史				
担当教員	堂前 雅史				
テーマと到達目標	本講義は、地域のモデルとして大学が面する岡上地域を取り上げ、また地域の区画として流域という自然保護上も防災上も都市計画上も重要な概念を用いて、人間社会と自然との共生できる持続可能な都市文化のあり方を考え、地域・流域についての社会的課題とその解決法を考える。				
概要	授業は、まず岡上地域および鶴見川流域でのフィールドワークと、岡上地域および鶴見川流域での社会や文化において知識・経験を有する講師によるゲスト講義を受けてもらう。そして、それらを踏まえ受講生が自分たちで設定した社会的課題について調査研究して、その解決法を提案してもらい、期末にその発表の会（プレゼン）を行う。予定は、ゲストや天候や受け入れ施設の都合などによって変更する可能性がある。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	序論 流域として岡上の課題を考える				対面授業
第2回	岡上フィールドワークの企画と準備				対面授業
第3回	岡上フィールドワークの企画と準備				対面授業
第4回	岡上フィールドワーク				対面授業
第5回	ゲスト講師1 鶴見川流域の政策課題(予定)				対面授業
第6回	ゲスト講師2 地域自治組織と政策課題(予定)				対面授業
第7回	ゲスト講師3 自然環境と政策課題(予定)				対面授業
第8回	ゲスト講師4 町田市の政策課題(予定)				対面授業
第9回	鶴見川流域フィールドワーク 流域治水施設見学				対面授業
第10回	グループワーク1 それまでの授業内容を踏まえ、研究テーマ設定&グループ分け				対面授業
第11回	グループワーク2 グループごとの調査・研究活動 1				対面授業
第12回	グループワーク3 グループごとの調査・研究活動 2				対面授業
第13回	グループワーク4 グループ発表に向けた発表資料作りや内容についての最終チェック。				対面授業
第14回	研究・調査結果発表（グループ毎） 各グループ毎の発表。				対面授業
第15回	地域のどんど焼き準備現場見学（予定）				対面授業
成績評価の基準	毎回の課題への解答（1/3）と発表内容（1/3）と期末レポート（1/3）で成績評価。				
履修にあたっての留意事項	フィールドワークがあったり、授業時間外もあれこれと調べることが出てくるうえに、グループ活動が軸となるので、それを面倒くさがらない人であることが受講条件。 ゲスト講師の講義では、ゲスト講師の都合によっては、遠隔地からオンラインで講義をしてもらう回がありうる。 またこの科目は「地域流域プログラム」のコア科目である。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	治水施設のフィールドワーク（横浜市内）で交通費が必要となる。		
教科書	授業をこれに沿って行うという意味の教科書ではないが、本講義の主旨は以下の本に由来するので折に触れて目を通すことを強く薦める。 岸由二『生きのびるための流域思考』（ちくまプリマー新書）（2021）	教科書(ISBN)	978-4480684059
参考文献	鈴木勁介『私編岡上風土記稿』八月書館(2003) 鶴見川流域水協議会編『鶴見川流域水マスタープラン』鶴見川流域水協議会（2015） 鶴見川流域誌編集委員会編『鶴見川流域誌』（2003） 岡上民俗文化財緊急調査団編『岡上の民俗』川崎市教育委員会社会教育部文化課（1982）	参考文献(ISBN)	978-4938140441